

# そうだったのか! 通信

2016/10

## Vol.2 火

発行: 石神井・冒険遊びの会

垣根の曲がり角にたき火があったのはいつのころでしょう。

現代の子どもたちは火を身近に感じることなく大人になっていきます。

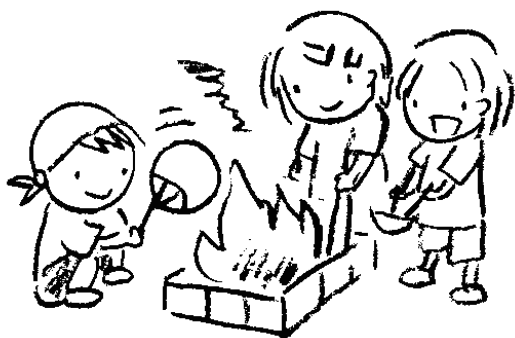
「危険」と言うけれど

「火」の扱い方を知れば危険を避けられるようになります。

プレーパークでは許可を得て火を扱っています。

べっこうあめを作ったりマシュマロを焼いたり、

みんなで料理をしながら火に親しんでいます。



火をうまくつけられるかな？

火は熱い！炭の炎は赤くなくても熱い！

どのくらいまでなら手を近づけても大丈夫かな？

火は燃え広がる！

燃えやすいものと燃えにくいものがある。

風の強い日は燃えたものが飛んだら危ない。

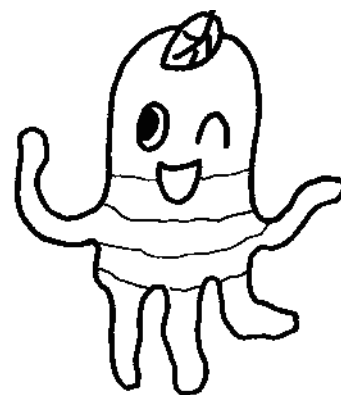
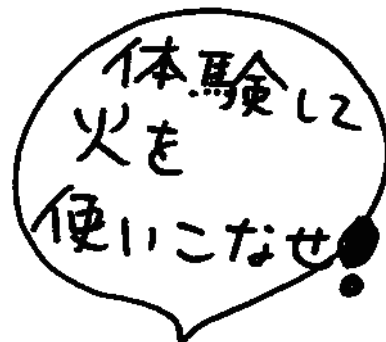
消えそうになった火を絶やさない方法は？

火を安全に消すには？

・・・というように火を扱うときには  
先の見通し、試行錯誤、問題解決能力、考える力などが不可欠です。  
マッチを擦る、熱さを感じるなど身体の感覚もたくさん使います。  
こうしてたくさんの知識が体験的に身についていくのです。

火を囲んでいると精神もリラックスしてきます。  
知らない人同士でもうちとけて話がしやすい雰囲気です。  
「たき火」にはなにか心が安定する要素が  
含まれているのかもしれませんが。

え？たき火の前に座っていたことない？  
ぜひプレーパークで体験してみてください。  
石神井プレーパークは大人も遊んでいますよ。



ソーダッダノカ君